

れの中ゆえ、浴するもの少し。この湯を汲み来たりて、居風炉に温めて入湯す。主治は小河内の湯と同じく頭痛、金瘡、折傷を治すること妙なり。

風張峠

北谷の西の界なり。(註 植田本には「倉掛」とのみ記す) 沢又組字倉掛というところ

にて路は兩岐す。右の方の谷間を行けば、「稗ざす向」というところに峠あり。これは小河内村への間道なり。この幽谷の奥に月夜山という公林山あり。又、左の方、倉掛より白岩坂という九十九折を登り、それより風張峠なり。ここは昇降一里の嶺なり。西の方へ下れば小河内郷なり。もつとも嶮岨の峰巒なり。この辺の村民は或は山足、或は半腹に家居す。就中、この峰の半腹、左の方、谷間に茗荷平というところあり。誠に幽栖の地にして、他郷の人は行くこと実に稀なり。

産物

織物類 上田島。八丈島。結城島。青梅島。川勾島。太織島。帯地類。木綿島 戸倉村より東の村

村にて織出す。太布楮皮を苧にうみて織る。これは檜原にて織る。無地八丈 広幅物、帯地。大久野村、五日市村、留原村、小和田村辺、その外所々より出す。織色は黒、花色、茶、浅黄、鶯色、その外色々あり。京織物三内村にて製す。その好みに随いて

織り出す。これを製する家一軒なり。

梨子 五日市、伊奈村より多く出す。その余の村々よりも出すも、この兩村は殊に多し。

柿 草花村、高月村より多く出す。

切石 伊奈村、平井村、網代村、いまは少し

埋木 平井川より出す。(註、あぶくま阿武隈の当て字か)

常にはあらず。川瀬の時宜によりて出ることあり。

砥石 檜原村三頭山、数馬山より出す。

岩葦 檜原村中岩山、或は戸岩より出る。

川苔 檜原村内の秋川に生ず。

山葵、菟蓴玉、何首烏芋 檜原村内所々に作る。

蕨、炭、柏皮 同村名産なり。

椿灰 檜原村より出す。紫染に用ゆるものなり。

桜皮 細工物に用ゆ。

みずら皮 一名ヨモソ桜、染物に用ゆ。檜原村名産。

溪鱈魚、秋川名産。

鱒 五日市村辺より、檜原村に至りて多し。秋川にて漁す。されど、下流には棲まずと云。